

平成24年度第3回市長定例記者会見てん末

日時 平成24年7月5日(木) 午前9時30分
場所 市役所4号棟第4会議室

1 開会(企画部長)

おはようございます。時間になりましたので、定例記者会見を始めます。Facebookにつきましては、武雄市長さんがお見えになっておりまして、現在職員を対象に研修を行っておりますので、それが終了次第、武雄市長を交えて合同の記者会見を行います。それでは市長からごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

日頃からメディアの皆様にはお世話になっております。今日は企画部長が話したとおり、Facebookの会見については、後ほど行いますが、さしあたり私のほうから、7月の行事予定と、奇跡の一本松について、お話しさせていただきます。

3 会見項目

まず、行事予定ですが7月9日、「ツール・ド・三陸」のメディア向けの発表をします。この会見には片山右京さんに同席いただき、午後1時から東京のホテルフロラシオン青山というところで、会見をさせていただきます。

7月15日には横田町の舞出橋の開通式が行われます。橋の長さは68.8m、平成20年度から測量設計が開始され、当初は24年度末完成予定でしたが、震災により橋の取り付け道路の老朽化が進んだことから、工事を前倒しして今年の6月に完成したものでございます。

同じく7月15日に「日米高校生サミット in 陸前高田 2012」が市役所で行われます。目的は、当地域の中長期的復興発展を支える人材基盤形成に資するということで、対象は気仙地域に籍を置く高校生、これは被災し、他地域の高校に通う生徒を含みまして、全米選抜の日本語を学ぶ生徒32人が参加します。

7月20日には臨時議会が行われまして、震災復興に係る補正予算の審議を行います。

7月23日から29日まで、ジャパンフェスタというロンドンオリンピックに関するイベントがありまして、気仙町のけんか七夕太鼓が招待されています。そちらには久保田副市長が出席します。

7月29日には、在北海道人会が、京王プラザホテル札幌で12時から開催されますので、私が出席する予定です。

以上で、7月の行事予定についての説明を終わります。

(企画部長)

それでは、7月の行事予定について、質問や意見はありませんか。

(記者)

7月20日の臨時議会の詳しい内容を教えてください。

(企画部長)

震災復興事業のうち、急いで執行しなければならない予算の補正です。

(記者)

具体的な事業内容はどのようなものでしょうか。

(企画部長)

まだ補正予算の中身を締め切っていないので、現時点では確定していません。

(企画部長)

他に質問等はございますか。なければ奇跡の一本松基金について、市長から説明いたします。

(市長)

奇跡の一本松基金ということで、お話させていただきます。現在一本松は枯死が確認されていますが、奇跡の一本松は希望の象徴、日本中世界中から応援されている。これを何とか保存検討しようとしているところです。

多額な経費を投入するのはいかがなものかという意見もありまして、税金はそこに投入するという考えはなく、基金をつくり、国内、世界中に募金を呼び掛けていきます。

お金の使途は一本松の経費に使い、周辺整備にもどれくらいの頻度で維持管理コストがかかるか分かりませんが、それらに使わせていただくことにしています。いくら集まるか分かりませんが、一本松保存の維持管理経費に使わせていただきます。

これは、口座振込により寄附を受け付けます。受取人口座は、岩手銀行さんに開設させていただきました。Facebookや現金で受け付けるということもございます。一本松の保存の方法はまだ決定しておりません。7月中には、ご提案をいただいている保存方法もございますので、我々が考えていることを、議会の皆さんとも協議していきたいと考えています。

詳しい内容については、このあと Facebook の説明の中で目標金額などをお話します。

(記者)

一本松の保存経費には、どれくらいかかると見込んでいますか。

(市長)

見積がもう1社からきています。さしあたり、1億5千万で、これにランニングコストが加わりますが、いくらになるか分かりません。1億5千万円は最低でも必要と考えています。

(記者)

保存方法で反対の人がいるからとか、科学的な方法で保存するのに反対という人がいるから、日本中や世界に寄附を求めるとおっしゃいましたが、それ以上に戸羽市長の気持ちがあるのではないのでしょうか。

(市長)

一本松は海外のメディアでも取り上げていただいています。応援のメッセージもたくさんいただいています。私も一本松について、いろいろなところで話をしているので、海外からも応援をしたいという人がたくさんいます。一本松は、陸前高田市民だけのものではなく、犠牲になられた方の鎮魂ということまで考えると、旧市役所など被災した建物を残すというのではなく、希望の部分は一本松だけであろうと。世界の人々の応援に応えるためにも、残すことは不可欠だと考えています。

(記者)

保存方法を決定したいということですが、いつまでに会合を開いて決定しますか。

(市長)

先日国営防災メモリアル公園を誘致する会と私で話をした際に、方法については、私に任せられていますが、複数の提案がされるということですから、議会の皆さんに相談し、市役所の庁議で決めるというプロセスで行いたいと思っています。

(記者)

保存の方針は20日の議会で決めるのでしょうか。

(市長)

これは議会で決めるものではありません。お盆は観光客や帰省客がいらっしやいますので、立てたままにしておきたい。9月上旬とか、8月末から作業をするということであれば、7月末までに方針を決定し、業者と契約するということになります。

(記者)

基金は今日から開始ですか。

(市長)

具体的には今日からということになります。

(記者)

すでに寄附は集まっているのでしょうか。

(企画部長)

一部寄附の申し出があった方もいます。実際は今日からですが、事前にもきています。

(記者)

図書館のプロジェクトのときは、本を出したときに、受領書を出す仕組みでしたが、今回の基金を出した方に対して、渡すものは何かありますか。

(市長)

通常5千円以上の寄附については、寄附金控除がありますが、そこは対応します。

(副市長)

基本的には、5千円以上の寄附者にはメールが届き、確定申告の際に使えるということです。

(記者)

寄附者に対して、記念品を贈呈するなどのアイデアがあると思いますが、そういうものを送ることは考えていませんが。

(副市長)

記念品は考えていません。Facebookを通じて行うので、メールが届くことになっていません。

(記者)

政局の話で、小沢一郎氏が新党を立ち上げるということですが、一連の小沢さんの報道について、被災地にとってプラスになるのか、マイナスになるのか、どちらだとお考えですか。

(市長)

小沢一郎代議士については、自分の信念を貫かれたのだと思います、結果として、あれぐらいの離党された方が出た。何が変わったのか、我々被災地にとって何が良くなったかということではありません。我々としては、いろいろ騒ぎがおきたが、結局何も起こらなかったという印象です。人事があるということで、国会が止まるという報道もありますので、我々にとってはあまり意味がなかったと思います。

(記者)

地元の黄川田代議士が民主党に残られましたが、それについてはどうお考えですか。

(市長)

少なくとも我々は何党とかいう感覚を持って仕事をしているわけではなく、国会議員の方々も立場はそれぞれで、要望があれば要望し、被災地支援ということで、しっかりと対応していただければと思っています。

(記者)

消費税率が上がった場合、被災地への救済措置が決まっていないうちで、税率が上がるこ

とはプラスでしょうか、それともマイナスでしょうか。

(市長)

今消費税を上げるべきではないと思っています。ローンを組んで家を建てようとしている人がいるのに上げるのは、日本の経済を立て直すためには、今上げる時期ではないだろうということです。2年後ということですが、今でも考え直していただきたいと思っています。

(記者)

旧矢作小学校の簡易宿舎の利用時期の見通しはいつごろでしょうか。

(副市長)

旧矢作小学校の簡易宿舎ですが、7月下旬にオープンの予定でしたが、いろいろなところで工事が行われていて、7月下旬の時点で水回りやシャワーが完成していない可能性があります。客室については、その時期にはできると思います。具体的なオープンの日取りは決定しておりません。

(記者)

中央公民館にメッセージが書かれていたということですが、対応策を教えてください。

(市長)

中央公民館に書かれたメッセージについては、業者をお願いして壁を切ることができるかどうか、経費がどうか調べています。ただ書かれているところの壁が非常に分厚い、厚い壁のところに書かれているので、表面だけ剥がすというのは難しいと思います。あまり高額なお金がかかるのであれば、残すのは難しいと思っておりますし、別な形で、例えば写真で保存ということも考えられますが、業者の意見も聞き決定したいと思っています。

(記者)

何らかの形では残すということでしょうか。

(市長)

技術的なもの、コストがあるので、今のところはっきり言えませんが、最低でも写真としては残したいと思っています。

(企画部長)

それでは、樋渡市長がお見えになりましたので、続いて Facebook について説明いたします。

(戸羽市長)

震災から1年余りが経過し、被災地の報道も減少傾向になり、自分たちなりに情報発信

をしていくということでしたが、被災地を忘れないで見に来てくださいということで、できるだけリアルタイムな形で、今般 Facebook という形で、情報発信をしようということです、

陸前高田市の出来事をできるだけリアルタイムで発信し、コメントをいただいて、市民のニーズや市民ではない方からのアイデアをいただきながら、復興に結び付けていきたい。今日は樋渡武雄市長にも同席いただいておりますが、武雄市の職員である古賀さんにもアドバイスをいただきながら、最大限 Facebook を活用したいと考えております。樋渡武雄市長からごあいさつをお願いします。

(武雄市長)

私は日本 Facebook 協会会長という肩書をもっておりまして、私も戸羽市長も、久保田副市長も古賀も強烈な Facebooker で、武雄市のHPを Facebook に切り替えました。そうしたら、それまで月間5万アクセスだったのが、半年で1,800万アクセスに増えました。月間300万、年間で言うと4,000万を超しますが、全世界の人が見ます。今 Facebook 人口は10億人に近づき、日本でも2,000万人が利用しています。ニュースフィードで市の状況をいろいろなところで見ることができる。市の財政にもものすごく寄与しています。被災地の本丸が動くということで、私としてもうれしいし、被災地を応援したいという人にとってもうれしいことです。今日は担当を連れてきていますが、楽天や Amazon では拾えない、しかし輝く1品を手数料なしで扱うFB良品にも参画していきます。陸前高田市の Facebook 戦略がいろいろな発展、飛躍を遂げれば、うちもパクリます。もともとお互いに連携していますが、今日をきっかけとして、深い関係になりたい。微力ですが応援していきたいと思います。

《Facebook の説明》

(広聴担当者)

今回陸前高田市でスタートする画面です。市長が公開ボタンを押して、公開されました。報道の皆さんのご質問があれば、お願いします。

(記者)

市のHPを Facebook にしようと思ったのは、誰の発案なのでしょう。一本松基金を Facebook にしようと思った人はどなたなのでしょう。武雄市の支援との絡み、時期的なものも教えてください。

(市長)

被災して、昨年5月に樋渡さんと知り合いになって、被災地を何とかしたいということで、久保田副市長も樋渡さんからの紹介で副市長にお願いしました。Facebook を導入しようということは、武雄市で行っていて、私自身も Facebook をやるものですから、久保田副市長と相談して陸前高田市でもやろうということで決めました。一本松基金は、一本松の保存を市のお金でやるのは難しいということで、副市長から Facebook で世界に呼び

掛けようという提案があり、企画しました。

仮に少額の寄附でも、1,000円出している人は、何か機会があれば陸前高田市に行きたいと思うかもしれません。ペイパルは手数料、大きな手数料がかかることはないということです。海外からでも寄附ができるということです。

武雄市もそうですし、樋渡さんとも連携をさせていただいておりますし、自治体間で姉妹提携をしているわけではありませんが、今日も市長にお越しいただき感謝しております。

(記者)

昨日今日、職員向けに講習会をしているということですが、住民向けに講習会を考えているかどうか教えてください。また、Facebookに触れたこともない人に対して、武雄市でも工夫していることはありますか。

(副市長)

昨日、武雄市の Facebook のブレイン、杉山さんを講師に迎えて、市職員向けに午前と午後に講習をやりました。職員の中で Facebook をしている人はいませんが、昨日だけで20人アカウント登録をしました。使い方だけでこのページの「いいね」を押している人もいますが、市から情報発信をしています。双方向で市民向けの講習会を企画していきたい。

(武雄市長)

武雄市では寺子屋というものがあり、無料で講習会をしています。平均年齢は68歳で、順番待ちの状態です。受講者の動機は Facebook の使い方を知りたいのではなくて、Facebook を使うと市長に文句が言える、職員とコミュニケーションができるという目的の人が多くて、女性が多いですね。FB良品ではひと月で100万円を超えます。

(記者)

自治体で公式で行っているところは何カ所ぐらいですか。

(武雄市長)

NHKの「おはよう日本」では、自治体では50を超えたと言っていました。

(記者)

県内では沿岸を含めてどこかありませんか。

(市長)

被災地では例がありません。

(記者)

1個1個書き込みが来ますが、職員の対応がたいへんではないでしょうか。

(市長)

全てリアルタイムというのは難しいでしょうけれども、午前中に来たものは、お昼ぐらいには答えると。すぐに結論が出ないものについては、内部で検討するというコメントすれば、相手にとっては親切と思います。

(武雄市長)

すぐには答えられない、3日待つてほしいと職員が言うだけで効果がある。預かるという言葉を出すだけで違う。

(記者)

従来のホームページの運用はどうなりますか。また、現在で職員のうち、どれくらいの人がアカウントを取得していますか。

(副市長)

ホームページはそのまま残します。Facebook とHP が2つあります。Facebook を受けてHP の中身を充実していくということです。現時点での職員の登録状況ですが、今回発表する前の時点で、20人ぐらい。職員数を300人ぐらいとして、昨日講習会をして、20人ぐらい登録しました。講習後に一気に登録をするとアクセスが増えて、一時的に登録ができなくなったということがあります。

全職員に将来的にやってもらうということです。義務付けをしないが、ぜひ使っていたきたい。

誰がコメントしたかについては、個人のアカウントに勤務情報を公開することで、それで全部把握できます。

(記者)

Facebook をどのように活用して、どのような効果を期待しますか。

(市長)

情報発信力が地方自治体は弱いとっていて、今は被災している状況で、そういう中でやることに意味がある、メディアの中から風化されつつある。そのために自分たちから情報発信をしていく、今インターネットから地域のを売っていく。一番基本的な考え方として、行政がものを売るといのは、昔はタブー視されていたと思います。しかし、地域でがんばっている人を行政が応援するという事は、地域の活性化につながると思います。いろいろなつながり方ができますし、双方向で意見交換ができると思います。

(記者)

Facebook での問い合わせに対応するということですが、全課全係 Facebook を見る人をつけるということでしょうか。

(市長)

理想的にはそうですが、最初はそうなっていません。自分もコメントをしますが、すべ

での質問に答えるのは難しい。答えられるものはすぐに答えて、時間がかかるものは待ってくださいというだけでも違うと思います。そういうところを目指しています。

(武雄市長)

武雄市の場合、最初は3、4人でしたが、やりとりが良くなっていくと対応する職員は増えていきます。現在は30人ぐらいが答えています。少し時間をかけていく必要があります。

(記者)

コメントするにあたっての決裁は不要でしょうか。リアルタイムの行政情報はどんなものを想定していますか。

(市長)

決裁が必要なもの、そうでないものがあるでしょう。誰がやっても答えが同じものについて、決裁をとる必要はなく、上司に聞かないと判断できないものは、いったん保留という形になります。

(副市長)

リアルタイムの情報発信というのは、台風が起きた際に道路の通行止め、それ以外にも、日々道路のパトロールをしていたときや、熊が出たというとき、行事が行われた際に写真をアップできるということがメリットです。ホームページの場合はデータを業者に渡してというプロセスで2、3日かかるということで、今会見の様子も写真でアップしていて、ホームページではありえない早さで、報告が迅速にできるということです、

(記者)

1年間考えて準備したのですか。

(副市長)

構想は去年からあり、武雄市からアドバイスを受けていましたが、実際には武雄市職員の古賀さんがいらっしゃってから始めました。

終了 午前10時30分